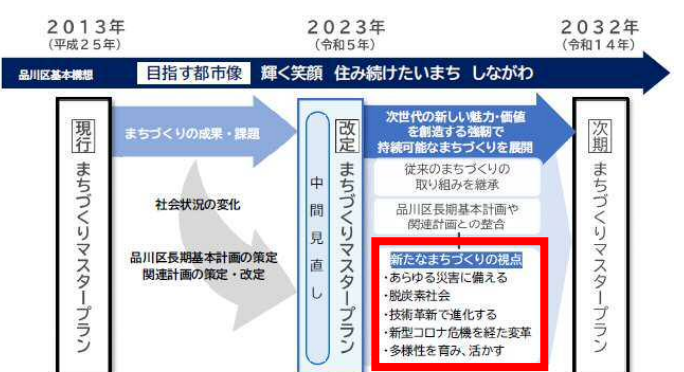



# 第4回改定委員会からの主な変更点〔素案(第1～4章)〕

令和4年10月27日(第5回)  
品川区まちづくりマスタープラン  
改定委員会

第4回改定委員会でのご意見及びそれ以降に行われた、オープンハウス型説明会や庁内関係課ヒアリング、庁内検討委員会での意見を踏まえ、下記のとおり素案の変更を行った。

【前回】 第4回改定委員会	【今回】 第5回改定委員会	変更のポイント
<p>全般</p> <p>—</p>	<p>【追加】 ホームページのQRコードを追加</p> <p>【修正】 カラーユニバーサルデザインに基づく配色</p>	<p><input type="checkbox"/>パソコンやスマートフォンによる、記載内容の音声読み上げ機能の利用ができるようにするため</p> <p><input type="checkbox"/>視覚障害者等に配慮</p>
<p>第1章 品川区まちづくりマスタープランとは (1-3p)</p> 	<p>(1-3p)【修正】</p> 	<p><input type="checkbox"/>展開する流れを再整理し、概念図を修正</p>
<p>—</p>	<p>(1-4p)【移行】 社会状況の変化に対応し、強靱で持続可能な社会へ</p>	<p><input type="checkbox"/>第2章から第1章に移行し、計画改定の背景として再整理</p>
<p>—</p>	<p>(1-6p)【追加】 ⑤ 計画の構成</p>	<p><input type="checkbox"/>冒頭で計画の全体を見渡せるよう構成と概要を掲載</p>
<p>第2章 まちづくりのこれまでと今後の展望 (2-7p) 特性・変化 ① 人口と居留意向</p> <p>(2-7p) 特性・変化 ② 土地利用</p> <p>(2-8p) 特性・変化 ③ 防災</p> <p>(2-8p) 特性・変化 ④ 商店街と駅周辺の機能集積</p> <p>—</p>	<p>(2-7、8p)【修正、追加】 特性・変化 ① 人口<b>推移と将来見通し</b></p> <p>(2-9p)【追加】 特性・変化 ② 土地利用</p> <p>(2-10p)【追加】 特性・変化 ③ 防災</p> <p>(2-11p)【追加】 特性・変化 ④ 商店街と駅周辺の機能集積</p> <p>(2-12p)【追加】 特性・変化 ⑤ 公園とみどり</p>	<p><input type="checkbox"/>2020(令和2)年以降の人口推移を追加</p> <p><input type="checkbox"/>人口の社会増減・自然増減の追加</p> <p><input type="checkbox"/>将来人口推計の修正</p> <p><input type="checkbox"/>土地利用面積割合のグラフを追加</p> <p><input type="checkbox"/>不燃領域率、耐火面積比率のグラフの追加</p> <p><input type="checkbox"/>業務床×駅乗降客数の図の追加</p> <p><input type="checkbox"/>みどりの経年変化のグラフの追加</p> <p><input type="checkbox"/>公園分布図、地区別の公園面積割合のグラフの追加</p>

【前回】 第4回改定委員会

(2-11p)

4

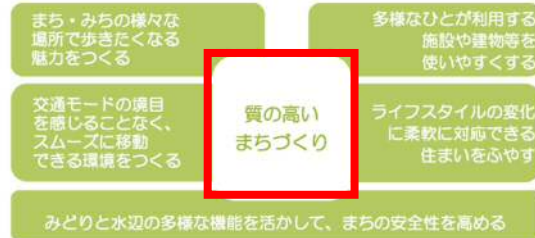
新たなまちづくりの視点

——これからの社会変化への対応の必要性

2013(平成25)年の品川区まちづくりマスタープランは、「少子・高齢化」「地球環境問題の深刻化」「首都直下地震の切迫性」などを踏まえた計画としていましたが、社会変化のスピードは、さらに加速しています。

今後は、様々な社会的課題に対応しながら、中長期を見据えて、次世代の社会変化に対応できる「質の高い」まちづくりを進めていく必要があります。

改定計画では、あらゆる災害への備えや脱炭素社会の実現、新技術の活用や新型コロナ危機を経た変革、多様性を育み活かすまちづくりを新たな視点とし、土地利用と開発誘導の基本的考え方、分野別・地区別まちづくりの方針を見直しています。



【今回】 第5回改定委員会

(2-15p)【修正】

4

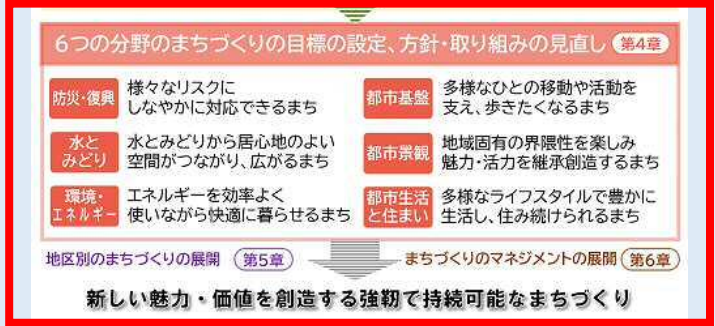
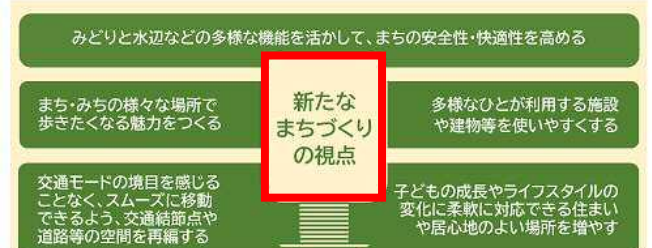
新たなまちづくりの視点

——これまでの取り組みを継承・発展させつつ、次世代を見据えたまちづくりを展開

2013年(平成25)年の品川区まちづくりマスタープランは、「少子・高齢化」「地球環境問題の深刻化」「首都直下地震の切迫性」などを踏まえた計画としていましたが、社会変化のスピードは、さらに加速しています。

今後は、様々な社会的課題に対応しながら、中長期を見据えて、次世代の社会変化に対応できるまちづくりを展開できるよう、新たなまちづくりの視点に加え、分野ごとの方針・取り組みを見直しました。

第4章の分野別まちづくり方針の中では、新たなまちづくりの視点が入る取り組みについて、「新」マークで表示しています。



(2-13p)

質の高いまちづくりのイメージ



(2-16p)【修正】

まちの様々な空間とひと、暮らしをつなぎ、魅力・価値を育てるまちづくりのイメージ



変更のポイント

□第1章「③改定の目的」からのつながりが分かるタイトルに変更

□質の高いまちづくり、まちづくりの視点、社会変化とまちづくりの方向性などの流れを再整理して簡素化

□構成を簡素化し、第4章以降につながるながれで再整理

新たなまちづくりの視点  
↓  
第4～6章のまちづくりの見直し、展開  
↓  
新しい魅力・価値を創造する  
強靱で持続可能なまちづくり

□イメージのタイトルを見直すとともに、イメージ画像も変更

【前回】 第4回改定委員会

第3章 目指すまちのすがた

【今回】 第5回改定委員会

変更のポイント

(3-2p)【追加】

**品川区基本構想との関連性**

品川区基本構想では、将来像「輝く笑顔 住み続けたいまち しながら」の実現を目指し、5つの都市像が示されています。  
この5つの都市像と、第3章で示す土地利用と開発誘導および第4章で示す分野別まちづくりの目標とは関連しながら、目指すべき都市像を実現します。

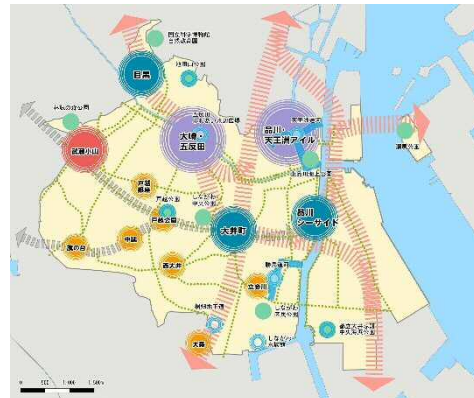
都市構造	品川区基本構想 [5つの都市像]	品川区基本構想 [5つの都市像]				
		だれもが輝く にぎやかなまち	未来を創造 するまち	みんなで豊く 健康・福祉都市	学びにつなぐ 環境都市	暮らしを守る 安全・安心都市
都市構造	広域な都市活動を担う 拠点としての機能を発揮 し、つながり創りを推進	●				
土地利用と 開発誘導	活力ある拠点に形成 する都市像が魅力ある まちのありようを創出	●				
<b>分野/目標</b>						
防災・復興	様々なリスクに ふたたび 対応できるまち					●
都市基盤	多様なひとの移動や 活動を支え、歩きたく なまち	●		●		●
水とみどり	水とみどりから憩心機 のふたつを創出するまち、 広がらなまち	●			●	●
都市景観	景観計画の推進等を 進め、魅力あるまちを 創出するまち				●	
環境 ・エネルギー	エムシーエーを軸 とした、環境に 配慮したまち				●	●
都市生活 と住まい	多様なライフスタイル で暮らすまち、 住み続けられるまち		●	●		

●●:特に関連が強い項目

□都市構造、土地利用と開発誘導、分野別まちづくりの目標と品川区基本構想との関連性を、表を用いて整理

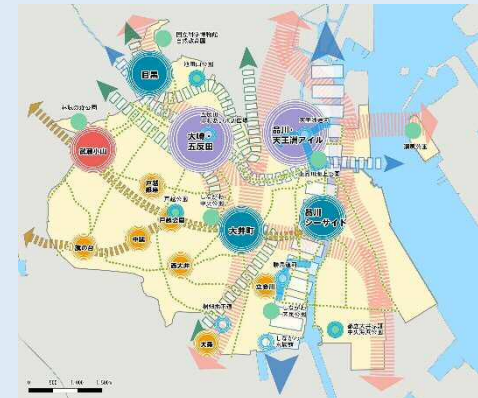
(3-2p)

② 将来都市構造 (図)



(3-3p)【修正】

② 将来都市構造 (図)



□水とみどりの軸(目黒川軸・臨海軸、崖線軸)の追加

(3-8p)【追加】

**分野別まちづくりの目標等との関係性**

将来都市構造に基づく各拠点や都市軸は、第3章で示す土地利用と開発誘導および第4章で示す分野別まちづくりの目標等とそれぞれ関連しながら、その形成を実現します。

土地利用 開発誘導	分野/目標					
	防災・復興	都市基盤	水とみどり	都市景観	環境 ・エネルギー	都市生活 と住まい
広域な都市活動を担う 拠点としての機能を発揮 し、つながり創りを推進	●					
活力ある拠点に形成 する都市像が魅力ある まちのありようを創出	●					
多様なひとの移動や 活動を支え、歩きたく なまち	●					
水とみどりから憩心機 のふたつを創出するまち、 広がらなまち	●					
景観計画の推進等を 進め、魅力あるまちを 創出するまち	●					
エムシーエーを軸 とした、環境に 配慮したまち	●					
多様なライフスタイル で暮らすまち、 住み続けられるまち	●					

●●:特に関連が強い項目

□将来都市構造と分野別まちづくりの目標等との関係性を、表を用いて整理

【前回】 第4回改定委員会	【今回】 第5回改定委員会	変更のポイント
<p>第4章 分野別まちづくり方針</p> <p>(構成)</p> <p><b>0 6つの分野のまちづくりと連携</b></p> <p>1 防災・復興 2 都市基盤 3 水とみどり 4 都市景観 5 環境・エネルギー 6 都市生活と住まい</p>	<p>(構成)【修正】</p> <p>1 防災・復興 2 都市基盤 3 水とみどり 4 都市景観 5 環境・エネルギー 6 都市生活と住まい</p> <p><b>7 「強靱なまち」につながる分野連携</b></p>	<p><input type="checkbox"/>冒頭に「強靱なまち」を打ち出すことの唐突感を抑えるため、分野連携の方向性は、6分野のまちづくり方針の最後に移行</p>
<p>—</p>	<p>(各分野)【追加】</p> <p>(1)●●の現状 現状を示すグラフ・図・写真等の追加</p>	<p><input type="checkbox"/>成果・課題、目標の前提となる現状値を追加</p>
<p>(各分野)</p> <p>(1)まちづくりの主な成果</p>	<p>(各分野)【追加】</p> <p>(2)まちづくりの主な成果 まちづくりの成果を示すデータの追加</p>	<p><input type="checkbox"/>まちづくりの成果を示す定量的に示すデータを追加</p>
<p>(各分野)</p> <p>(3)まちづくりの目標 (イメージ図)</p>	<p>(各分野)【修正】</p> <p>(4)まちづくりの目標 (イメージ図)</p>	<p><input type="checkbox"/>ラフスケッチから線画へ更新</p>
<p>(各分野)</p> <p>(4)方針と取り組み</p>	<p>(各分野)【追加】</p> <p>(5)方針と取り組み <b>新</b> マークの追加</p>	<p><input type="checkbox"/>「新たなまちづくりの視点」による取り組みが一目でわかるようマークを追加</p>
<p>(各分野)</p> <p>方針図・附図および凡例</p>	<p>(各分野)【修正】</p> <p>方針図・附図および凡例</p>	<p><input type="checkbox"/>図・文字が見やすくなるようサイズを調整</p>
<p>—</p>	<p>(4-8p:防災・復興)【追加】</p> <p>⑥復旧・復興へ機動的に対応できる体制をつくる</p> <p>●被災後、早期に的確な復興を実現するため、復興後のまちづくりを想定するとともに、基礎データの収集・蓄積や復興体制の構築など、復興事前準備を進めます。</p> <p>●災害廃棄物の処理・処分に関する方針、手続等を区外への避難者を含む区民や関係者に周知するとともに、適切な処理を推進します。</p> <p>●東京都や民間事業者等と連携し、建築物の被災状況や廃棄物処理施設の状況に関する情報を集約する仕組みを構築します。</p>	<p><input type="checkbox"/>復旧・復興に関する取り組み内容を追加</p>
<p>—</p>	<p>(4-17p:都市基盤)【追加】</p> <p>③鉄道やバスなど、公共交通の利便性をさらに高める</p> <p>●利用者の増加等により混雑が著しい駅については、混雑緩和に向けた対策について鉄道事業者と協議を進めます。</p>	<p><input type="checkbox"/>交通利便性を高める取り組み内容を追加</p>
<p>—</p>	<p>(4-8p:水とみどり)【追加】</p> <p>①うるおいとやすらぎをもたらす水とみどりのネットワークを充実する</p> <p>●広く区民に愛される公園を整備するため、子どもたちのアイデア等を活かした公園づくりを進めていきます。</p>	<p><input type="checkbox"/>子どもたちのアイデア等を活かした取り組み内容を追加</p>

【前回】 第4回改定委員会

(4-1、2p)

0 6つの分野のまちづくりと連携

品川区が目指すまちのすがたを実現するため、将来都市構造と土地利用と開発誘導の基本的な考え方を踏まえつつ、6つの分野のまちづくりの方針を定めます。

6つの分野が連携し、「強靱なまち」につながる取り組みを重視して、まちづくりを展開します

東日本大震災直後の2013(平成25)年に策定した品川区まちづくりマスタープランは、「防災まちづくり」を最も強力に打ち出した計画とし、取り組みを進めてきました。近年、首都直下地震などの切迫性がさらに高まり、自然災害の頻発化・激甚化が顕著になっており、国・東京都・品川区のそれぞれが国土強靱化の取り組みに注力しています。こうした背景から、品川区は、長期基本計画において「安全」を重要な政策分野のひとつに位置付けており、区民アンケートでも、防災に関する取り組みを求める回答の割合が高くなっています。そのため今後の10年間で、「防災・復興」分野を軸としながら、6分野が連携した取り組みを「強靱なまち」につなげていくことを重視して、まちづくりを展開していきます。

【今回】 第5回改定委員会

(4-53、54p)【修正】

7 「強靱なまち」につながる分野連携

「防災・復興」分野を軸に、6つの分野の効果的な連携を重視して、次世代を見据えたまちづくりを展開

東日本大震災直後の2013(平成25)年に策定した品川区まちづくりマスタープランは、「防災まちづくり」を最も強力に打ち出した計画とし、取り組みを進めてきました。近年、首都直下地震などの切迫性がさらに高まり、自然災害の頻発化・激甚化が顕著になっており、国・東京都・品川区のそれぞれが国土強靱化の取り組みに注力しています。今後10年間の品川区のまちづくりでは、上記の国土強靱化の取り組みと整合をとりつつ、「強靱なまち」につなげていくことを重視して、「防災・復興」分野を軸にして、6分野の取り組みを効果的に連携させたまちづくりを展開していきます。

変更のポイント

- 6分野のまちづくり方針を踏まえて、「防災・復興」分野を軸に効果的な連携を進めていく趣旨で表現を調整
- 6分野の日頃(平常時)の取り組みにおいて、大規模災害への備えや災害時の効果発揮を意識し、「強靱なまち」につなげていくこと示す図として調整
- 災害時のどのような効果をねらって分野①(防災・復興)を軸に、分野を超えた取り組みを連携させていくかが伝わるよう再整理